

3 指導と評価

小学校児童指導要録（参考様式）

様式1（学籍に関する記録）

区分	学年	1	2	3	4	5	6
学級							
整理番号							

学 籍 の 記 録							
児 童	ふりがな			性 別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第 1 学年 入学 第 学年 編入学	
	氏名						
	生年月日	平成 年 月 日生		転入学	平成 年 月 日 第 学年 転入学		
	現住所						
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(平成 年 月 日) 平成 年 月 日		
	氏名						
	現住所			卒業	平成 年 月 日		
入学前の経歴				進学先			
学校名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)							
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度		
区分 / 学年	1		2		3		
校長氏名印							
学級担任者 氏名印							
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度		
区分 / 学年	4		5		6		
校長氏名印							
学級担任者 氏名印							

児 童 氏 名

行 動 の 記 録															
項 目	学 年	行 動						項 目	学 年	行 動					
		1	2	3	4	5	6			1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣								思いやり・協力							
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護							
自主・自律								勤労・奉仕							
責任感								公正・公平							
創意工夫								公共心・公德心							

総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と な る 諸 事 項

第 1 学 年		第 4 学 年	
第 2 学 年		第 5 学 年	
第 3 学 年		第 6 学 年	

出 欠 の 記 録

区 分	授 業 日 数	出 席 停 止 ・ 忌 引 等 の 日 数	出 席 し な け れ ば な ら ぬ 日 数	欠 席 日 数	出 席 日 数	備 考
学 年						
1						
2						
3						
4						
5						
6						

小学校及び特別支援学校小学部の指導要録に記載する事項等（抜粋）

II 指導に関する記録

小学校における指導に関する記録については、以下に示す記載することが適当な事項に留意しながら、各教科の学習の記録（観点別学習状況及び評定）、外国語活動の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成する。

特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における指導に関する記録については、小学校における指導に関する記録に記載する事項に加えて、自立活動の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

特別支援学校（知的障害）小学部における指導に関する記録については、各教科の学習の記録、特別活動の記録、自立活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

特別支援学校小学部に在籍する児童については、個別の指導計画を作成する必要があることから、指導に関する記録を作成するに当たって、個別の指導計画における指導の目標、指導内容等を踏まえた記述となるよう留意する。また、児童の障害の状態等に即して、学校教育法施行規則第130条の規定に基づき各教科の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合又は各教科、道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合並びに特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成21年文部科学省告示第36号）第1章第2節第5の規定（重複障害者等に関する教育課程の取扱い）を適用した場合にあっては、その教育課程や実際の学習状況を考慮し、各教科等を合わせて記録できるようにするなど、必要に応じて様式等を工夫して、その状況を適切に記入する。

特別支援学級に在籍する児童の指導に関する記録については、必要がある場合、特別支援学校小学部の指導要録に準じて作成する。

1 各教科の学習の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における各教科の学習の記録については、観点別学習状況及び評定について記入する。

特別支援学校（知的障害）小学部における各教科の学習の記録については、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す小学部の各教科の目標、内容に照らし、具体的に定めた指導内容、実現状況等を文章で記述する。

(1) 観点別学習状況

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における観点別学習状況については、小学校学習指導要領（平成20年文部科学省告示第27号）及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（以下、「小学校学習指導要領等」という。）に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」

状況と判断されるものを B, 「努力を要する」状況と判断されるものを C のように区別して評価を記入する。

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における各教科の評価の観点について，設置者は，小学校学習指導要領等を踏まえ，別紙 5 を参考に設定する。また，各学校において，観点を追加して記入できるようにする。

(2) 評定

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における評定については，第 3 学年以上の各教科の学習の状況について，小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして，その実現状況を総括的に評価し記入する。

各教科の評定は，小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして，その実現状況を「十分満足できる」状況と判断されるものを 3, 「おおむね満足できる」状況と判断されるものを 2, 「努力を要する」状況と判断されるものを 1 のように区別して評価を記入する。

評定に当たっては，評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり，「(1) 観点別学習状況」において掲げられた観点は，分析的な評価を行うものとして，各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際，評定の適切な決定方法等については，各学校において定める。

2 外国語活動の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における外国語活動の記録については，評価の観点を記入した上で，それらの観点到照らして，児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等，児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については，設置者は，小学校学習指導要領等に示す外国語活動の目標を踏まえ，別紙 5 を参考に設定する。また，各学校において，観点を追加して記入できるようにする。

3 総合的な学習の時間の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における総合的な学習の時間の記録については，この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で，それらの観点のうち，児童の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等，児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については，小学校学習指導要領等に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ，各学校において具体的に定めた目標，内容に基づいて定める。その際，例えば，「よりよく問題を解決する資質や能力」，「学び方やものの考え方」，「主体的，創造的，協同的に取り組む態度」及び「自己の生き方」等と学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえて定めたり，「学習方法に関すること」，「自分自身に関すること」及び「他者や社会とのかかわりに関すること」等の視点に沿って各学校において育てようとする資質や能力等を踏まえて定めたりすることが考えられる。また，教科との関連

- ① 各教科や外国語活動，総合的な学習の時間の学習に関する所見
- ② 特別活動に関する事実及び所見
- ③ 行動に関する所見
- ④ 児童の特徴・特技，学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動，表彰を受けた行為や活動，学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項
- ⑤ 児童の成長の状況にかかわる総合的な所見

記入に際しては，児童の優れている点や長所，進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし，児童の努力を要する点などについても，その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。

また，学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報も，必要に応じ，記入する。

さらに，通級による指導を受けている児童については，通級による指導を受けた学校名，通級による指導の授業時数，指導期間，指導の内容や結果等を記入する。通級による指導の対象となっていない児童生徒で，教育上特別な支援を必要とする場合については，必要に応じ，効果があったと考えられる指導方法や配慮事項を記入する。

特別支援学校小学部においては，交流及び共同学習を実施している児童について，その相手先の学校名や学級名，実施期間，実施した内容や成果等を記入する。

中学校生徒指導要録（参考様式）

様式1（学籍に関する記録）

区分	学年	1	2	3
学級				
整理番号				

学 籍 の 記 録						
生 徒	ふりがな			性 別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第1学年入学
	氏名					第 学年編入学
	生年月日	平成 年 月 日生		転入学	平成 年 月 日 第 学年転入学	
	現住所					
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(平成 年 月 日)	
	氏名				平成 年 月 日	
	現住所			卒業	平成 年 月 日	
入学前の経歴				進学先 就職先等		
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)						
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度	
区分 / 学年	1		2		3	
校長氏名印						
学級担任者 氏名印						

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名	学校名	区分	学年	1	2	3
		学級				
		整理番号				

各教科の学習の記録													
I 観点別学習状況													
教科	観 点	学 年	1	2	3	教科	観 点	学 年	1	2	3		
国語	国語への関心・意欲・態度												
	話す・聞く能力												
	書く能力												
	読む能力												
	言語についての知識・理解・技能												
社会	社会的事象への関心・意欲・態度												
	社会的な思考・判断・表現												
	資料活用の技能												
	社会的事象についての知識・理解												
II 評 定													
数学	数学への関心・意欲・態度					学年	教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術
	数学的な見方や考え方					1							
	数学的な技能					2							
	数量や図形などについての知識・理解					3							
理科	自然事象への関心・意欲・態度					学年	教科	保健体育	技術・家庭	外国語			
	科学的な思考・表現					1							
	観察・実験の技能					2							
	自然事象についての知識・理解					3							
総合的な学習の時間の記録													
						学年	学 習 活 動	観 点	評 価				
音楽	音楽への関心・意欲・態度					1							
	音楽表現の創意工夫												
	音楽表現の技能												
	鑑賞の能力												
美術	美術への関心・意欲・態度					2							
	発想や構想の能力												
	創造的な技能												
	鑑賞の能力												
保健体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度					3							
	運動や健康・安全についての思考・判断												
	運動の技能												
	運動や健康・安全についての知識・理解												
技術・家庭	生活や技術への関心・意欲・態度					3							
	生活を工夫し創造する能力												
	生活の技能												
	生活や技術についての知識・理解												
外国語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度												
	外国語表現の能力												
	外国語理解の能力												
特別活動の記録													
						内 容	観 点	学 年	1	2	3		
						学級活動							
						生徒会活動							
						学校行事							

生徒氏名

行 動 の 記 録									
項 目	学 年	1	2	3	項 目	学 年	1	2	3
基本的な生活習慣					思いやり・協力				
健康・体力の向上					生命尊重・自然愛護				
自主・自律					勤労・奉仕				
責任感					公正・公平				
創意工夫					公共心・公德心				

総合所見及び指導上参考となる諸事項

第 1 学 年	
第 2 学 年	
第 3 学 年	

出 欠 の 記 録

区分	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1						
2						
3						

研究開発学校における取組例

平成23～25年度

香川県直島町立直島小学校直島小学校・直島中学校

種類 学年 時数	活動				教科		
	1	2	3	4	5	6	中学校
	35	35	35	35	70	70	160
指導者	担任 ALT				小外国語専科教員 担任 ALT	中外国語科教員 担任 ALT	中外国語科教員 ALT
目標	外国語を通じて言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながら、コミュニケーション能力の素地を養う。		外国語を通じて言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成と聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。		外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成と聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を総合的・統合的に養う。		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションへの感心・意欲・態度 ・外国語への慣れ親しみ ・言語や文化についての気付き 		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションへの感心・意欲・態度 ・外国語理解の能力 ・外国語表現の能力 ・言語や文化についての知識・理解 				
内容	音声中心		音声中心 音声と文字を関連づけた活動 読むこと書くことを系統的に指導	4技能を総合的に指導			

【導入の経緯】

1. H6より英語活動に全学年週1コマ、担任とALTとのTTで実施。
2. H14より、高学年児童の英語活動への意欲低下のため、5・4制を取り入れ小中連携を推進。
3. 児童生徒の学びの連続性と教員の指導力が課題として浮上。
4. H23より、3年より教科導入。

【特徴】

○外国語の学習を「とても楽しい・楽しい」と肯定的にとらえている児童の割合は、97.2%(H23)、98.2%(H24)、95.5%(H25)。
内、「とても楽しい」と答えた児童の割合は、53.5%(H23)、80.7%(H24)、79.3%(H25)。

○教科化したことで、児童の理解力や表現力が高まり、学習意欲が向上している。
92.9%の高学年児童が「文字を使って学習することを良い」とし、表現する内容量が増えるにつれ、文字を必要とする傾向が見られる。

○中3の英検3級・準2級受験率68.0%、内3級・準2級合格率60.0%(H25)。
「特定の課題に関する調査 書くことに関する調査」(国立教育政策研究所2010と同内容調査)において、すべての問題で全国正答率を上回り、無回答の生徒がいない。
正答率:「友達を紹介する英文を書く」760%(全国48.0%)、
「外国人に日本の夏と冬のどちらをすすめるか」80.0%(全国38.2%)。

○小学校第3学年から教科として位置づけるには、学習内容の定着や評価・評定を行う上で、週1コマでは十分とは言えない。

【評価について】

○評価の観点、評価規準、判断基準を作成したことで、指導者が指導目標や評価規準を明確に意識し、指導に生かすことができた。

○小学校では、評価を総括して評定するシミュレーションを行ったが、信頼性や妥当性には課題がある。

○3・4年生においては、1時間の中で意欲付けにつながる評価の言葉をかけることが効果的。しかし、週1コマの時数で、各児童を見取って評価する場面や時間が十分とれないため、評定につなげるための評価記録がとりにくい。

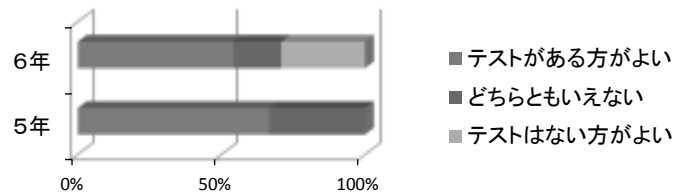
○5・6年においては、週2コマの実数で、少人数や一人で表現する場面が増え、指導者が各児童を観察しやすくなる。また、児童が「読むこと」「会話」などを相互評価したり、ワークシートなどを使って理解を確かめたりするなど、評価の場面や方法が多くなることから、数値で評定することは可能であると、シミュレーションを行った。しかし、判断基準による児童の達成状況の見取り等から評価から評定への信頼性や妥当性には課題がある。

○小学校では、チェックリストを使って友達や教師と発話できる語いや文を確かめた結果、どこまで語いが身につけているのか、表現できるのかを児童自身が自己評価できた。

研究開発学校(直島小学校)におけるアンケート結果

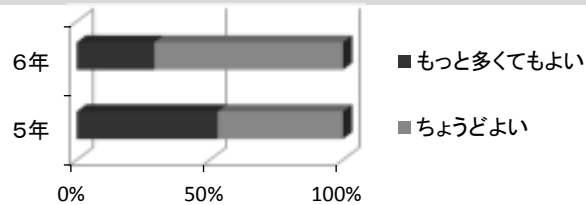
Q テストをすることについて

	5年	6年
テストがある方がよい	12	13
どちらともいえない	6	4
テストはない方がよい	0	7



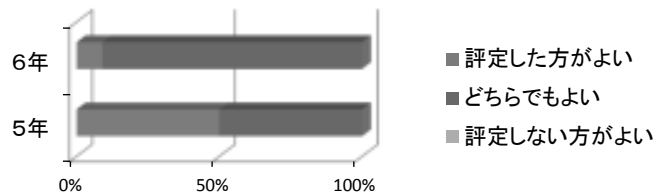
Q 授業時間について

	5年	6年
もっと多くてもよい	9	7
ちょうどよい	8	17
もっと少なくてもよい	0	0



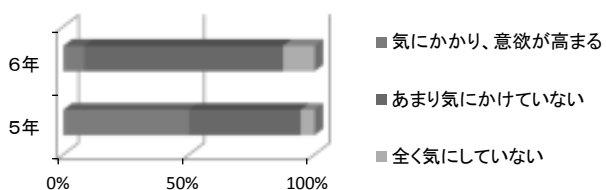
Q 英語の評定をしてもよいですか

	5年	6年
評定した方がよい	9	2
どちらでもよい	9	20
評定しない方がよい	0	0



Q 他教科において「評定」が気になり、学習意欲が高まる

	5年	6年
気になり、意欲が高まる	9	2
あまり気にかけていない	8	19
全く気にしていない	1	3



Q 学習意欲が高まる時

	5年	6年	
活動などができたという達成感	11	16	64%
ほめてもらったとき	10	5	36%
友だちに認められたとき	12	0	29%
ご褒美などをもらったとき	8	8	38%
テストの結果がよかったとき	10	8	43%
通知表の評定	9	0	21%

